

令和5年度第5回 松江市公共交通利用促進市民会議

1 日 時 令和5年2月15日（木） 14時00分～16時00分

2 場 所 松江市役所 第1常任委員会室

3 出席者 別紙参照

4 内容

1 開会

2 あいさつ

3 議事

(1) 松江市地域公共交通計画の策定について

①計画の素案について

4 その他

5 要旨

1 開会

2 あいさつ

・松江市公共交通利用促進市民会議加藤会長があいさつをした。

3 議事

・別紙参照

4 その他

1. 出席者名簿

出席者名簿

会員名	役職名	氏名	備考
学 識 経 験 者	米子工業高等専門学校教授	加 藤 博 和	
松江市公民館長会	会 長	三 宅 克 正	
松江市町内会・自治会連合会	常 任 理 事	白 石 照 雄	
松江市高齢者クラブ連合会	事 務 局 長	松 延 由 子	
松江市身障者福祉協会	会 長	広 野 正 充	
松江市連合婦人会	会 長	万 代 悦 子	
松江市コミュニティバス利用促進協議会連絡会	会 長	長 野 正 夫	
松江商工会議所	専 務 理 事	松 浦 俊 彦	欠席
連合島根東部地域協議会	執 行 委 員	高 橋 卓 己	代理
島根県旅客自動車協会	専 務 理 事	秦 日 出 海	欠席
一畑バス株式会社	代 表 取 締 役	吉 田 伸 司	
松江市交通局	交 通 局 長	須 山 敏 之	
有限会社生馬タクシー	代 表 取 締 役 社 長	福 田 宏 二	
有限会社鹿島タクシー	代 表 取 締 役 社 長	物 部 淳 治	
西日本旅客鉄道株式会社	山陰支社山陰地域振興本部	川 上 潤 一	代理
一畑電車株式会社	営 業 部 長	野 津 昌 巳	
国土交通省中国運輸局島根運輸支局	首席運輸企画専門官	橋 本 健 司	
島根県松江警察署	交 通 総 務 課 長	松 浦 利 行	
松 江 市	都 市 整 備 部 長	井 上 雅 雄	

【株式会社バイタルリード】

総 合 計 画 部 長	宮下 和也
総合計画部 計画二課 主任	原 雄一郎

【事務局】

交 通 政 策 課	課 長	山 崎 透
〃	副主任	深 田 将 平

2. 議事

(1) 松江市地域公共交通計画の策定について

① 計画の素案について

※記載のページについては、計画素案（令和6年2月15日現在）による。

加藤会長

- ・ 一畑バスの大東線は令和6年10月から代替バスの運行が開始されるが、その他の路線はどうなるのか。
→ 先日の市長の定例記者会見の通り、代替策を検討中。なお、大東線の代替バスは国庫補助対象路線に該当する可能性があり、国庫補助に関する書きぶりは島根運輸支局へ確認したうえで記載している。

松江市交通局

- ・ P.53に燃料電池バスの記載があるが、電気バスの記載がない。今後、車両の小型化や、電気供給システムなどの整備を検討する中で、電気バスの導入も選択肢に入ってくるのではないかと考えている。

一畑バス

- ・ 中国製の電気バスは1台あたり約2千万円、国産は8千万円から1億円かかると聞いている。走行距離を鑑みると、市内路線は電気バスが、高速乗合バスは燃料電池バスが適している。したがって、電気バスの記載があってもよい。
→ 電気バスについても追記する。

三宅副会長

- ・ この計画素案の中で、松江らしさはどこになるか。

バイタルリード

- ・ 松江市が直面している問題に向き合い、キープロジェクトとして「ネットワークの再構築」、「公共交通のあり方の検討」、「担い手確保」の3つをあげている。計画の方針に基づき、個別具体の事業に取り組んでいくことで、より松江らしさが見えてくると考えている。

三宅副会長

- ・ 公共交通に関する問題は、全国的に共通している。松江ならではの部分が計画にあるとよい。課題解決の手法は、他の自治体と大きくは変わらない。その中でも、松江らしさはどこかを聞きたかった。

一畑バス

- ・ 発想を変えて、堀川遊覧船のような鉄道・バスタクシー以外の移動サービスを活用していくことも考えられる。水上交通を、市内の通勤手段として活用できないか。他にも、大根島から市街地中心部まで船で通勤・通学するといった、これまでとは変わった考え方があってもよいのでは。

バイタルリード

- ・ 公共交通を補完したり、公共交通と組み合わせて市街地の回遊性を高めるモビリティの活用策を、ここまで書き込んでいる計画はそう多くない。水上交通を含めた様々なモビリティの活用という部分で、松江らしさがより伝わるようにしたい。

三宅副会長

- ・ 市民に「松江市の計画は、他自治体の計画と違う」と感じてもらえるような計画にしてほしい。

松江市交通局

- ・ P4-9 には、他市だけではなく松江市の事例の写真を掲載してはどうか。
- ・ 松江市の特徴的な取り組みの一つは、全国的にも注目されているこの「市民会議」である。P. 56 に「『(公共交通を) 自分たちで守っていく』という責任感を醸成することが必要」と書かれている。そういう意識で公共交通を利用することが行政負担の抑制につながることを、市民に理解し実践してもらうことが重要である。
- ・ バスの円滑な運行には、利用者だけではなく、自動車を運転する一般ドライバーの協力も必要。

加藤会長

- ・ P. 27 には、カーボンニュートラルに対応した堀川遊覧船の記載がある。水上交通の活用を大胆に取り入れてもいいのではないか。
- ・ 市民会議は松江市の特色の一つであり、財産である。前回の市民会議において、丸山委員も市民会議の取り組みの重要性を主張されていた。市民会議の取り組みを、大きく取り上げて紹介してほしい。

連合島根地域東部協議会

- ・ P. 44 に「独占禁止法特例法に基づく事業者間連携」を有識者会議において検討するとある。その有識者会議において、運賃が決定されるのか。そうである場合、有識者会議の構成員に市民が入っていないのが気になる。市民の意見も踏まえて検討すべきでは。

事務局

- ・ 独占禁止法特例法は、一定の手続きを踏めば、交通事業者同士が直接協議できる制度である。まずはその方向で、交通事業者間の連携を検討するのがこの事業の趣旨である。
- ・ なお、運賃そのものを有識者会議で検討するのではなく、事業者間の調整を図る仕組みを有識者会議で検討する、ということである。

加藤会長

- ・ 有識者会議に全てを委ねているように見えるため、書きぶりをもう少し分かりやすくしてほしい。
- ・ 運賃については、住民を含めた分科会を設置して検討するという流れになるのか。

島根運輸支局

- ・ 確認し、後日回答する。

連合島根地域東部協議会

- ・ 市民の意見を聞くことが大切である。計画期間中に、運転手の処遇改善が後手に回らないようにする必要がある。

一畑バス

- ・ 経費削減だけで路線を維持することは困難である。運賃値上げについても、今後考えなければならない。

加藤会長

- ・ 持続可能な公共交通体系の構築には、受益者負担の観点も必要である。運賃の見直しも、その中で考えていく必要がある。

松江市交通局

- ・ 収益確保のため、割引制度の廃止の動きが全国的にみられる。新たな割引制度を導入することは難しい。

鹿島タクシー

- ・ バスやタクシーだけでなく、建設業などでも担い手が不足している。自分の子どもや、子どもの友達もほとんど県外へ出てしまい、地元には若者がいない。例えば、松江西高校のような就職特化型の学科を高校に設置し、地元企業への就職を促進してはどうか。

加藤会長

- ・ 担い手確保策として、インターンシップや就業体験など、地元の教育機関と連携した取り組みも必要である。長期的な担い手確保策についても、計画に記載してほしい。

松江市町内会・自治会連合会

- ・ 自宅からバス停までの歩行環境の整備も必要である。
- ・ 一般ドライバーと交通事業者の双方に対して、交通ルールの教育が必要である。

加藤会長

- ・ 歩行環境の整備については、市民や来訪者が目的地までスムーズに移動できるよう、関係部局において対応いただきたい。

事務局

- ・ 重要な指摘である。関係部署と連携して、情報共有を図りながら検討したい。

松江市高齢者クラブ連合会

- ・ 高齢者にとって ICOCA の割引制度は大変ありがたい。
- ・ 運賃改定の際には、市民への丁寧な説明が必要。
- ・ 高齢者が道路の縁石に座ってバスを待つ姿を見たことがある。椅子に座ってバス

を待つことができれば、自家用車よりも時間がかかるとしてもバスを選択してもらいやすくなるのでは。

- ・ 公共交通機関を利用して松江市内を周遊できる観光施策を考え、PR してはどうか。

松江市身障者福祉協会

- ・ 松江市の独自性の記載や、P.4-9 の写真について、あらためて検討してほしい。
- ・ 計画に基づく事業を、令和 6 年度から速やかに進めてほしい。

松江市連合婦人会

- ・ バスを利用した買い物ツアーなど商業施設と連携した利用促進を通じて、公共交通を皆で盛り上げようという機運を高めてほしい。

加藤会長

- ・ 移動の目的地と連携して、皆で公共交通を盛り上げるという取り組みも松江らしさにつながる。観光施設とセットにした乗車券の PR や、皆で誘い合って外出する取り組みを計画に盛り込んでほしい。

松江市コミュニティバス利用促進協議会連絡会

- ・ 幹線だけでなく、支線の利用者確保策も必要。令和 6 年 4 月から大野・秋鹿地域で AI デマンドバスの運行が始まるが、地域の特性を活かしながら発展させてほしい。

連合島根東部地域協議会

- ・ 市民はバスの相次ぐ減便で不安を感じている。計画に掲げる事業に着実に取り組むことが、市民の安心につながる。交通事業者以外の関係機関とも連携を図りながら計画を推進してほしい。

松江警察署

- ・ 全国的にみると、特に都市部において電動キックボードの利用が増えている。令和 5 年 7 月に道路交通法が改正され、一定の条件を満たしている特定小型原動機付自転車は 16 歳以上であれば運転免許不要で運転することができ、時速 6 キロ以下に切り替えると歩道も通行できることとなった。取り扱いに注意が必要であるため、整理いただきたい。

加藤会長

- ・ P.42 には「電動キックボード」と一まとめで記載されているが、運転免許の要・不要を含めて書きぶりを整理・修正してほしい。

都市整備部長

- ・ 「コンパクト・プラス・ネットワーク」の実現を目指したまちづくりを今後も推進する。その中で、ご指摘のあった待合環境や歩行環境の整備も行っていきたい。

生馬タクシー

- ・ 大型連休における交通規制の際に、バスは通行できるがタクシーは通行できない

ことがあった。タクシーを公共交通に位置付けるのであれば、タクシーも通行できるようにしてもらいたい。

加藤会長

- ・ タクシーを公共交通として位置づけ、市民や観光客の移動手段として気軽に利用できるようにしてもらいたい。

JR 西日本

- ・ 廃止される路線バスの代替交通として JR も活用いただけるということであるが、令和 7 年 3 月のダイヤ改正に向けて、地域のニーズに沿うことができるよう検討したい。
- ・ JR 松江駅のターミナル機能向上や、デジタル技術の活用にあたっては、弊社も地域の皆様と一緒に事業を進めていきたい。

一畑電車

- ・ P. 50「自転車や新たなモビリティ等との連携強化」について、松江しんじ湖温泉駅でのレンタサイクル実証実験は終了したが、今後もできるところは協力したい。
- ・ 雲州平田駅において実証実験を行っている観光型のカーシェアリングの状況は、計画の推進にあたり情報提供したい。
- ・ 交通事業者として、バスの乗り方教室など、様々な形で市民との接点を作ることが重要である。学校に出向いて実施している電車の乗り方教室を、松江しんじ湖温泉駅で実施することもできる。計画の推進に今後も協力したい。

加藤会長

- ・ 学校や教育委員会との連携も重要である。学校に対して早期に情報提供することで、年間行事に入れ込んでもらうことができる。学校としても地域学習の素材を探しているので、うまくマッチングできるとよい。
- ・ 一畑電車も松江らしさの一つである。堀川遊覧船など、様々な交通サービスが子どもたちに学びの場になる。

島根運輸支局

- ・ 運転手不足や 2024 年問題などにより交通事業者を取り巻く環境は厳しい状況にあるが、地域の特性や課題を踏まえ、国の補助事業も活用しながらよりよい計画にしてほしい。

3. その他

事務局

- ・ 「松江らしさ」の必要性など、より良い計画にするための貴重な意見をいただいた。今一度、事務局で計画素案を整理し、修正したものを会長に確認をしていただいたうえで、2月中旬から1か月間、パブリックコメントを実施したい。
- ・ 「計画を策定した後、いかに事業を実行していくかが重要である」という意見をいただいた。スケジュールを立てて、皆様とともに計画を進めていきたい。
- ・ 次回の市民会議は3月26日（火）14時から予定している。